

事業所名 リハビリテーション颯 みずの

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和5年3月（新型コロナウイルス拡大防止のため文書にて回覧）

参加者	議題
利用者 1名	1. 運営状況 ・デイサービス/介護度別年間利用者数一覧 ・当月利用状況(2023年2月末)
利用者家族 1名	
地域住民の代表者 2名	
市職員 1名	
地域包括支援センター職員 1名	2. リハビリテーション颯みずのの取り組み
事業所 2名	
	3. 感染対策について
	4. ご意見・質問照会

会議録

1. 運営状況

デイサービス/介護度別年間利用者数一覧

リハビリテーション颯みずの

令和4年3月～令和5年2月

要介護度	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
事業対象者	8	8	8	7	8	9	10	10	11	10	11	12	112
要支援1	17	20	23	19	19	22	21	21	19	19	23	22	245
要支援2	14	11	13	14	12	13	11	11	10	12	10	10	141
要介護度1	17	17	16	15	15	17	16	19	18	17	18	18	203
要介護度2	7	6	6	8	9	7	8	8	9	11	10	11	100
要介護度3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	3	2	3	28
要介護度4	0	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	17
要介護度5	2	2	2	2	2	2	1	2	0	0	0	0	15
合計	68	67	71	70	68	74	70	75	71	74	76	79	863

2023年2月末時点での登録者数79名、一回当たり平均利用人数10名、直近2月の延べ利用者数は19日営業で398名の方にご利用いただきました。

2. リハビリテーション颯 みずのの取り組み

リハビリテーション颯みずのを利用して、約一年で身体の痛みが緩和され、以前の活動的な生活を取り戻し「卒業」されました。颯みずのでは身体を動かす事で身体機能を改善させよりよい生活の実現を目指しています。

例としてS様をピックアップし、下半身の柔軟性を向上させ歩行の耐久性を上げて

名古屋へ買い物に行くことが出来たことを紹介しています。

3. 感染症対策について

〈基本方針〉

「高齢者介護施設における感染対策(一般社団法人日本環境感染学会)」に準じて実施している。

〈事業所内対策〉

1) 換気に関して

施設内の換気において、表・裏の扉を開け、室内4か所・トイレ3か所の換気扇・加湿器・空気清浄機を常に動かす。

2) 机・椅子などの配置

開始時の集団運動やグループ体操時において、ご利用者様同士ができる限り向かい合わせにならないように、椅子の設置を円形から並列に変更して運動を行う。また、フロアーに机を置かずに、休息する際も出来る限り向かい合わせにならないように、集団運動時同様に椅子を並列に設置する。

3) 集団口腔運動に関して

運動メニューの最後に、口腔機能の向上と終了の挨拶を兼ねて歌を唄っていましたが、楽曲を流し手拍子のみでの対応とする。

4) 送迎について

乗車する前にも検温と手指消毒を行い、37.5度以上ある場合は、その日のご利用は見送っていただく。

送迎車では窓開け、外気モードして走行しています。

4. ご意見・質問照会

質問 1. 利用者状況とプログラムについて

現在の1日平均利用人数を教えてください。また、効果的なプログラムを継続することで目標達成をされた利用者様もいらっしゃるようですが、どのようなプログラムをデイサービスで行っているのか具体的にいくつか教えていただきたいです。

〈回答〉

2月の時点での一回のご利用平均人数は10名です。そのため1日の平均は20人となります。午前午後との比較は午後の方が多いです。

颯みずのでのプログラムでは基本プログラムであるエアロバイクやニューステップ、ローイング、アブダクションによる機械的な運動です。効果としては全身の機能を維持・改善を行う事ができ、特にエアロバイクやニューステップでは座位の耐久性の向上や歩行距離延長、膝肩疼痛軽減、心肺機能の維持・向上等があります。ローイングやアブダクションでは円背での歩行姿勢改善や歩行時におけるふらつき改善です。そのほかにもホットパックやウォーターベッド、低周波治療器があり、筋緊張緩和や血管拡張・血行促進・疼痛緩和等の効果があります。

個別プログラムとしては屋外歩行や段差昇降、腰痛改善運動、こむら返り防止体操、肩関節疼痛改善ストレッチ、手指巧緻動作練習等行っております。

ご利用者様の状態を考慮して基本プログラムを行いその方の目標や出来るようになりたいと事に合わせて個別プログラムを提供させていただいています。また、基

本プログラムの負荷はその方の状態によって変更し、毎月の評価で出され結果から負荷を変更し、負荷や時間を自身の筋力等の数値を常に認識して頂く事でマシン等に取り組む姿勢、意欲の向上に繋がっていると話しさせて頂いています。

質問2. 通所型サービスを利用されると、実際には卒業することが難しく利用し続ける方が多い中で、意欲を引き出し、ゴールを共有して取り組まれ、本当の自立支援・介護予防が実現できている事例と思いました。多くの方が卒業に向けて取り組んでいけるよう、引き続きお願い致します。また、リハビリ専門職が地域の住民に対して運動の動機付け、働きかけをされることは意識も高まると思えます。地域の状況、要望に合わせ、ご相談していきたいと思しますのでよろしくお願い致します。

現在の利用者人数（曜日や介護認定者別）の構成。職員配置をお知らせください。

〈回答〉

ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

現在（2月末時点）のご利用者様は要介護1:19人、要介護2:11人、要介護3:3人、要介護4:2人、要介護5:0人、要支援1:22人、要支援2:10人、事業対象者:12人。また曜日別では月曜日午前:8人、午後12人、火曜日午前:9人、午後15人、水曜日午前:9人、午後15人、木曜日午前:10人、午後14人、金曜日午前:10人、午後15人と午後が比較的多いです。

また、男女別では男性:25人、女性:54人と1:2の割合となっています。

職員は颯せとと連携を行い、日によって違いますが、OT1人、CW4人~6人、NS2人です。

意見1 今回の事例こそ介護保険が求めている自立支援だと思いました。ご利用者様が今後どのようにになりたいのか身体面、社会参加、活動面等とアセスメントをするなかで本人の会話を丁寧に受け止められ、双方が前向きに取り組まれた結果卒業となったと思えます。リハビリテーション颯みずのは運動機能訓練等に重点を置き、次のステージに移行しやすいと考えております。

地域の社会資源等も把握することで、卒業する契機となる事もあると思えます。関係機関と連携を行い、利用者様の今の状況や思いにもしっかりと寄り添うことが出来るよう努力していきたいと思えます。

【次回：令和5年9月頃開催予定】